

# 治療記

寺田博和



平成31年4月の連休前にイムノカーサのスタッフさんより私に「森愛の響き」に鶴見クリニックの患者として、寄稿してほしいとの依頼がありました。

しかし、電話での返事は、「私で良いのですか？」でした。

「森愛の響き」は、鶴見先生を始め、素晴らしい先生方の優れた見識や高い専門知識をはじめ、患者さんの治療経験や他医院での治療方法等、大変勉強になる素晴らしい専門誌として拝読を楽しみしている季刊誌です。

特に、患者さんの寄稿文は、重い病気（癌ステージ4レベル）を患い他院では手術、放射線治療、抗がん剤等の治療を受け最後の最後に鶴見先生の治療で治癒していく、感動の物語が多いような気がします。それを読みながら「鶴見先生もすごいけど、患者さんも真剣さが違うな」といつも感動・感心して拝読しております。

私のケースを紹介しますと、平成29年10月に市立総合病院での生体検査で、前立腺がんのステージ2と診断を受けました。その後、家族の勧めもあり聖隷三方ヶ原病院にロボット手術での、「前立腺全摘手術」を受ける予定で、平成29年12月に市立総合病院から聖隷三方ヶ原病院に転院をしました。手術に当たり聖隷三方ヶ原病院の先生が、ホルモン剤で前立腺がんを極力小

さくしてからの施手術をとの方針を出していただいたおかげで、手術が8月に延びました。

市立総合病院の先生からも前立腺癌の治療は摘出手術、放射線と説明を受けておりましたが、どうも気乗りがせずに、「癌は、断食又は食事で治療できるのではないか？」と頭の片隅にありましたので、ネットで検索したところ、鶴見隆史先生の名前と断食合宿の事を見つけました。さっそく、鶴見クリニックに連絡を取り診察を受けました。

鶴見先生は東京で開業する以前は、私の自宅の近くで内科の先生として開業していたので、なんでも相談できる個人の主治医（ホームドクター的存在）でした。そのため、気楽に「先生、癌になったので頼みます。」の一言で鶴見先生の診察をお願いしたと思います。

平成30年1月23日に、鶴見クリニックでメタトロン検査、血管年齢検査、血液のルロー検査をしました。メタトロン検査を受け鶴見先生には、「寺田君、うまい物を豚のようにたらふく食べていただろう。」「その結果が右目は白内障寸前、肝臓、脾臓、腎臓は癌寸前、膀胱炎、尿道炎も発症している。」「あなたは病気のデパートだ。」「ご愁傷様です。」「南無阿弥陀仏」と何回も言われました。

血管年齢検査では「血管年齢は69歳、血液は

ルローだらけ。よくそれで生きてるね。」等々ぼろ糞にいわれました。挙句の果てに、鶴見先生が出してくれた処方箋は、約1ヶ月間の断食、その後3ヶ月はビーガン食、おまけに「お酒の飲酒は論外」とまで言われましたのでさすがさま、先生の顔を見て「鬼！と。」叫んでしまいました。しかし、鶴見先生の医療に対する真摯な姿勢と真面目な考え方は、以前から知っていましたので、先生の言うことを実践すれば何とかなる

